



那須 英二

議員

日本共産党
弥富市議団

地震による堤防の破堤に
対応した防災・減災対策を

問

- (1) 本市は周りを大きな川で囲まれた地形にあり、海抜ゼロメートル以下の地域、さらには大部分が埋立地ということで、液状化も高い確率で起こると予想されている。よって、津波よりも地震で堤防が壊れたり、または液状化によって堤防が沈下して破堤になると考えられる。堤防の破壊による浸水被害が、津波よりも先に起こり得る可能性が大いにある。
- 破堤を想定した防災・減災計画をどう検討していくか、市の見解を尋ねる。
- (2) 現在、公共施設に外階段をつけて、屋上避難ができるように取り組んでいる
- (3) 伊勢湾台風の時、市長自身も水が引くまで屋根裏で過ごして救助を待っていたそうであるが、当時は多くの田舟【】があったと聞いている。今は田舟もないので、船の用意も必要と考える。
- 災害が起こった時に、どうするのか可能な限り想定し、それに対応するにはどうしたらいいかを真剣に考え、市としても取り組んでいくべきではないか。
- (4)  水田で、稲や肥料などを運ぶのに用いる舟形の乗り物。
災害発生時に市民一人

一人が自分はどこに避難するのかということを見つめる必要がある。

自治体単位でも確定してなければ、避難訓練もやりやすいのではないかと。

避難する場所はどこなのかということを確認にした避難計画を作成すべきと考えるが、市の見解を尋ねる。

(5) 市民の中には防災や災害対策のアイデアを多く持っている方もみえる。

また、困っていること、不安に思っていることも多くあると思う。

そこで、全市的に防災アンケートを実施し、調査してみてはどうか。

国・県ともに海岸・河川の強化を図るべき役割を考へている

答 市長

(1) 私たちの役割として、国や県と一緒に強化して海や河川をさらに強化していくことだと考えている。

いきたいと思っている。

答 危機管理課長

(2) 津波・高潮緊急時避難場所における長期的な滞在というのは想定していない。

答 市長

(2) 伊勢湾台風の時、水位が高くなってくる中で屋根裏に避難をし、一定の時間が経過した後は、助けをいただき、安全な場所に移動した。

私たちが東日本大震災から教訓として学んだのは、一時的に避難をする場所に対して何を保持していくか、避難をするときに何を保持していくか。これが今私たちが自助という中で、日ごろからしっかりと考えていかなくてはならないことと考える。

答 危機管理課長

(4) 今後は、避難する場所を視野に入れて、より詳細な避難計画を検討していきたい。

(5) 市では、アンケートではなく、防災ボランティアの会合や自主防災会の会合などの折に意見交換をすることによって、市との連携を強化して、一人一人の防災意識の向上を支援することにより、市総合計画の施策項目の消防防災の充実を強く推進したまちづくりに取り組んでいきたいと考えている。

(3) 公助としては食料や暖房設備も用意する。備蓄できるものは備蓄をしていく。

我々としては避難所へ配付し、安心をさせていただくような対応はしていきたい。しかし、我々が今回の震災で学んだのは自助、共助

であると思う。

自助として何をしていたかなくてはならないかをいま一度、皆様にしつかりと考えていただきたい。

例えば、家の中の家具の転倒防止などさまざまな安全策を講じたり、速やかに避難をする訓練を繰り返し行ったりすることが、災害に強い地域住民として力になってくると思っている。